

第 16 回 由良川流域懇談会 議事要旨

開催日時：令和 7 年 12 月 9 日（火）13：30～15：00

開催場所：市民交流プラザふくちやま別館（4 F 大会議室）

出席者：池上委員、音田委員、神田委員（座長）、小谷委員、高橋委員、松島委員、矢島委員、柳瀬委員（8 名全員出席）

I 議事次第

（1）開会

（2）座長選任

（3）議事

- ・進捗点検の進め方
- ・由良川における河川整備の進捗状況
- ・由良川水系河川整備計画の進捗状況
- ・河道掘削検討 WG の報告

（4）閉会

II 議事概要（○：委員●：事務局）

（1）座長選任

由良川流域懇談会規約第 4 条に基づき、委員の互選により、神田委員が座長に選任された。

（2）進捗点検の進め方について

事務局から進捗点検の進め方について説明。

（3）由良川における河川整備の進捗状況について

○樹木伐採について、竹などは伐採してもすぐに再生してしまうため、再繁茂に対して考慮する必要があると考えている。他の河川でも樹木の再繁茂対策に取り組んでいるため、参考にするとよい。

●今回の樹木伐採の箇所は河道掘削に伴うものがほとんどであり、伐採だけでは無く、土壌も一緒に取り除いているので、当面の間、再繁茂しないと考えている。他河川の対策例も参考に対策を実施していく。

○土砂堆積が少なかったということについて、大規模な出水が無かったことも影響していると思うが、ダムで抑えられていることはないのか。また、山林の荒廃による倒木などによって、土砂が出やすくなっているのか。

●ダム地点の土砂堆積については、京都府などのダム管理者に土砂の堆積状況を確認している。流域内の山地からの土砂流出も一定あるものと考えている。定期的に、河川の横断測量を行い、土砂の堆積状況を把握し、河川の流水に影響があるものは撤去等の対策を引き続き、実施していく。

○マイ・タイムラインの作成支援をしているとのことだが、最近の洪水を見ると小さい河川からあふれてくるという状況になっているので、既存のデータでタイムラインを作っても

あまり意味が無いのではないか。

●現在は由良川に対してのタイムラインということになっている。ゲリラ豪雨などによって支川があふれるといった場合も想定されるので、本来は加味しないといけないと考えられる。

○支川については、内水も含めて京都府や市町村の協力が必要になるかと思うので、連携しながら対策していただければと思う。

○管理施設等の機能維持について、施設の補修の実施状況や電気設備部品の修理交換等の数がどのように推移しているか教えてほしい。

●河川管理施設の点検を毎年2回ほど行い、点検結果による評価をして、その程度に応じて補修を進めている。点検、補修をしているものの、施設の更新や修繕については増えている傾向になっている。

○特に機器等については、いずれ交換しないといけないタイミングが来ると思うので、そういったものも併せて報告いただけすると、今後の見通しとして分かりやすいと思う。

●耐用年数が来た段階で延命も図りながら、なるべく増えないようにコントロールしながら管理している。

○平成16年の災害時に地面がどろどろでポンプを容易に運べなかつたことから、ポンプ車の前進配置は非常に効果的だと思う。また、綾部高等学校のクリーン大作戦の紹介があつたが、大学に在籍していた時には毎年学生と竹やぶ刈りを行っていた。そういう体験を若い人にしていただくと由良川を守らないといけないといった気持ちが芽生えると思う。

●想定以上の洪水がいつ来るか分からないので危機感を持って今後も対策を続けていきたい。また、竹を切る体験については、出前授業なども行っているので学校のほうで望まれるのであれば考えていきたい。

○環境学習については、福知山市の小学校の実績がないので、アプローチのほうをお願いする。

●毎回やっていただいているところは毎年度続けていただいているが、今後は福知山市内も含めて拡大を図りたいと考えている。

○資料3-1 p5の並松地区の堤防整備は3年間で護岸部分を整備したということか。高さは現状の道路高さということか。

●そうである。横断図の黒の部分を整備した。黒部分の横の茶色の部分が現道の高さとなっている。計画高は青色なので、今後、道路と一緒に護岸も上げていくこととなる。

○資料3-1 p8の矢板は深さ何メートルぐらいまで打っているのか。安全性を確保する箇所については漏水等があったところを重点的に行っているのか。

●侵食対策として打設した矢板長は10メートルぐらいである。対策については、堤防を一斉に点検した結果、対策が必要となった箇所を順次、行っている

○堤防前後の地下水位のデータはあるのか。

●対策している箇所やその他の箇所も含めてデータは把握していない。

○民間のほうでそういうデータを持っているかもしれない。

○水質について、BODは現行の環境基準を満足しているとのことだが、環境基準はAラン

クか。次のランクは満足しているのか。

- 現行の環境基準はA類型で管理をしている。次のランクとなるとAAランクであり現状ではBODについては概ね満足しているが、京都府と連携する必要もあり、どのようにしていくかは次回、報告したい。

○以久田橋地点は大野ダムの下流なのでこの程度の水質だと思われるが、土師橋地点の上流には水田地帯が広がっているので、農業排水が流れ込んでいる影響で5月、6月にBODの値が増えているのは当然である。大規模化すると今まで5月で済んでいたのが6月まで流れ込む時期が遅れるので営農指導についても水質の向上に関して少し気にしておいたほうが良い。

- 府や市との兼ね合いもあるので連携を取りながら考えていきたい。

○河口砂州については、私のほうでも20年ぐらい観測しており、数十年サイクルで変わっている。現在、右岸側が発達しているが、右岸が無くなつて左岸側で発達したことも過去の数十年あるいは100年ぐらいのスケールではある。河口に京都府が突堤のようなものを作っていることもあり、モニタリングを続けて行ってほしい。場合によっては砂州を制御するような対策も必要となることも考えられる。

- 海岸の対策による影響や大きな出水による影響も考えられるので総合的に見ながら対策が必要な場合には対策していきたい。

○光ファイバー網整備進捗がR4からR6の3年間であまり進んでいない理由は何か。

- 道路が舗装された直後は光ファイバー埋設工事が出来ないため、整備に時間を要している。

(4) 由良川河川整備計画の進捗状況について

事務局から資料3-3に基づき、由良川水系河川整備計画の進捗状況について説明があり、委員より以下の質問があった。

○基本方針の見直しに関する目標設定も含めて、さらなる整備計画を立ててほしいということは住民の要望と考えてよいのか。

- そのとおりである。

○本日の点検結果も踏まえて堤防整備、環境対策なども含めて、河川改修については完了してきているところであり、河川管理についても確実に進められてきているところだと思う。流域内の住民からもさらなる河川整備の充実を求められているようなので、今後の河川整備の展開も含めて検討していただきたい。

- 流域懇談会の意見や住民の意見も踏まえ、今後の展開を検討していきたいと考えているので、御協力よろしくお願ひする。

(5) 河道掘削検討WGの報告

「由良川の環境に配慮した河道掘削検討WG」の座長である神田委員から資料4に基づき、河道掘削検討WGの報告が行われた。

(6) 懇談会全般について

懇談会全般について、委員より以下の意見があった。

- 整備計画による工事が行われることでどのような効果があるのか、実際にどのような成果が得られたのかを市民に対して具体的に分かりやすく説明していただきたいと思う。環境にナーバスになられる方からのご意見も賜ったりするが、いろんな立場や背景を持つ方にも丁寧で工夫ある説明を重ねていただき、そういう方のご理解が得られるような取り組みをしていただきたいと思います。
- ご意見を頂いた方にはできるだけ丁寧に回答しているが、引き続き、事業の効果や環境に対して極力負荷を掛けずに行っているということをアピールしていきたい。

以上